

ラグビー校における運動施設の出現と拡充動向に関する一考察

阿 部 生 雄

Emergence and Expansion of Athletic Facilities in Rugby School

ABE Ikuo

In '*Athleticism in the victorian and Edwardian Public School*', J. A. Mangan has suggested that 'athleticism', an educational ideology, emerged and consolidated after 1850. Taking notice of the emergence and expansion of athletic facilities as a physical evidence of athleticism, he also argued that they emerged and expanded into larger scale also after 1850. Nobody would doubt that his excellent work has contributed profoundly to the study of athleticism, but we could find the emergence and expansion of playing fields in public schools before 1850. This study re-examines Mangan's thesis which argues 'after 1850' while it probes into the emergence and expansion of athletic facilities in Rugby School whose influence might affect the athleticism of other schools as an leading great public school. The evolution of the athletic facilities in Rugby School consists of four stages. The first stage is from its foundation (1564) to 1749 : before 1749 there might exist a 'garden', but there had been any facilities for games and exercises. The second stage is from 1749 to 1816 : in 1749 Rugby School obtained three fields-Barn Close, Garden Close, Pond Close-, and after this, the evidences of boys' games and recreational activities including cricket and football began to emerge. The third stage begins from 1816 and it concludes in 1854. In 1816 a bigger 'Close' emerged. The fences between these various fields were levelled, and a plain piece of eight acres or so thus made ready for organized games. The Close experienced its expansions through the donations of adjoining lands presented in 1847, 1854 by two headmasters, A. C. Tait and E. M. Goulburn. It was during this stage that football, cricket, fives and other games evolved into a more highly organized form of school game. Games were transformed into 'athletic' activities rather than simply recreational ones, and their facilities became deserving to be paid educational attention by headmasters to expand. The fourth stage of the evolution of athletic facilities was brought after 1854 : from thenceforth, athletic facilities for various games have developed conspicuously. This conspicuous development of athletic facilities shows the consolidation of athleticism in Rugby School emerged during this stage. In Rugby School 'playing field' for games and recreational activities emerged by the beginning of 19th Century, and a bigger 'playing field' for athletic and organized games was officially provided by 1850's. Since then resources for school games have been ample and conspicuously, and they have been indispensable 'athletic appliances' symbolizing its school status. This case study of Rugby School endorses that the emergence of athletic facilities and the incipience of athleticism in public schools may have occurred much earlier than Mangan's thesis emphasizing 'after 1850' has suggested.

Key words : atheltic facilities, Rugby School, athleticism, Britain.

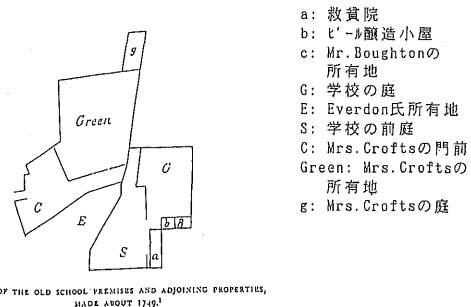
1. はじめに

19世紀イギリスのパブリックスクールにおける運動競技の発達、近代スポーツの形成に大きな影響を及ぼしたことはよく知られている。しかし、パブリックスクールでいつ頃から‘遊び’や‘運動’や‘ゲーム’のための専用の施設が生まれ、どのように発達したかを明らかにした研究は以外と少ない。この点に比較的大きな関心を示したのはJ.A. Manganである。彼は *Athleticism in the Victorian and Edwardian Public School* の第5章「衛示的施設、反知性主義、スポーツ教師」の中で、主にアッピンガム校の運動施設拡充の動向を分析し、また、補遺においてもハロー校の運動施設拡充の動向に注意を向けている¹⁾。彼はこの中で、ヴィクトリア時代の下部構造、特に1850~1873年の間に蓄積されたイギリスの富がアスレティシズムの成長を保障したとし、この富を背景に、パブリックスクールにおいて「加担、道楽、特権」²⁾のシンボルとしてプレーイング・フィールドが出現し始めた、と指摘している。このシンボルはパブリックスクールの生徒や教師や親やOBのアスレティシズムに対する思い入れを示すだけでなく、19世紀末に中等教育を論じたある者が「イギリスの人々に自らを売り込もうとするパブリックスクールは、そのゲーム施設が近隣のどの学校よりも優れていることを示すことに関心を持たなければならない」³⁾と指摘したように、次第に顧客としての生徒や親を魅きつけ、安心させる「保障」となり始めた。そして、その施設の規模はますます衛示的になり始めたという。しかし、こうしたManganの優れた指摘にもかかわらず、一般的傾向としてパブリックスクールにおける運動場の出現と拡充の動向は1850年以後のことであった、とするManganの説を、われわれはもう少し慎重に問い直す必要がある。というのもラグビー校の場合、Mangan説の時期を幾分早めるように修正しなければならないからである。また、彼の説の根拠は、他のパブリックスクールのアスレティシズムを先導したいわゆる「グレート・パブリックスクール」ではなく、アッピンガム校の事例を基にしているからである。本研究は、イギリスのアスレティシズムの成長に重要な影響を与えたグレート・パブリックスクールの一つであるラグビー校の運動施設の出現と拡充動向を明かにする。このことは同時に、パブリックスクールでは1850年以後に運動

場が出現し拡充し始めたとするMangan説の当否を検証することにもなる。

2. 19世紀以前の運動施設

Montague Shearmann はバトミントン・ライブラリーの“*Athletics and Football*”の中で「一校だけが広大な敷地の開けた草地のプレーグラウンドを殆どその創立時から持っていたと思われる。それはラグビー校であった。この故に、我々が予期したように、ラグビー校だけにそのオリジナルゲームの原始的形態が残存したのを見い出す」⁴⁾と主張した。この点は後にラグビー校のOBから批判を浴びることになるのであるが⁵⁾、実際には、ラグビー校の運動場はどのような拡充を遂げたのであろうか。結論から先に言えば、創立当初のラグビー校は、Shearmannが指摘したような広大な土地を保有していなかった。1564年、創立者のLawrence Sheriffeはラグビー校と救貧院の建設のために、遺言書に認めた50ポンドと、彼がラグビーに建てた1ルード30ポールの広さのマンションハウス、Brownsoverの牧師館、Holborn付近の約8エーカーのConduit Closeの3分の1を遺した。現在もそうであるが、ラグビー校の基本財産はラグビーとロンドンにある土地の収益によっている。救貧院の事業は1567年の彼の死後すぐに発足したが、学校の後者は1574年に完成し、一人の教師が任命された⁶⁾。従って、実際の学校の機能は1574年に開始されたといつてよい。この建物は、その後、約2世紀の間殆ど変化しなかった。1749年頃のTrust Paperには次のような簡略なラグビー校の所有地の図が記載されている⁷⁾。



PLAN OF THE OLD SCHOOL, TENEMENTS AND ADJOINING PROPERTIES, MADE ABOUT 1749.

Fig. 1 オールド・ラグビースクールの用地 (1749年頃)

この図は設立以来の古いラグビー校 (old Rugby School) の家屋敷 (premises) を伝えるものである。S が学校の所有地であるが、その広さは1ルード30ポールであると見積られている。

学校の所有地に変化があったのは、1749年であった。この年に、冒頭で述べた Shermann が「広大な敷地」と表現したラグビー校の運動場である「クローズ」(the Close) の原型となる次のような広さの三つの土地が購入された⁸⁾。

| | |
|------------------|-----------------|
| Barn Close | 2 a. 0 r. 12 p. |
| The garden Close | 1 a. 3 r. 35 p. |
| Pond Close | 4 a. 0 r. 27 p. |

1750年に T. Wilson によって描かれた図によれば、次のようなものである⁹⁾。

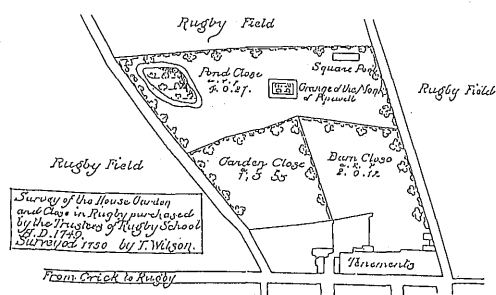


Fig. 2 1750年頃の「クローズ」

ここは未だ「クローズ」と後に呼ばれる大きなフィールドを形成しておらず、三つのフィールドがそれぞれ異なる機能を持っていたことを類推させるフェンスによって分離されていた。その当時まで、ラグビー校にはクリケットやフットボールのための専用の広大なグラウンドが、学校の所有として確保されていなかったことが窺える。1744-51にラグビー校に在学していた William Bray は、自分の少年時代の教育について回顧した手紙を 'Gentleman's Magazine' の1809年9月号に投稿したが、それによると「私の時代の生徒数は70人以下であったと思う……私はオールド・スクールに属していたプレーグラウンドを記憶していない。しかし、教会の境内を越えた所に生徒たちによって時折利用された小さなグラウンドがあった……」とされている¹⁰⁾。この Bray の記憶も、18世紀半ばまで、ラグビー校には生徒の運動や遊びのための専用グラウンドが存在しなかったことを裏付けている。

1750年に、旧校舎に代わって「ビッグ・スクール」(Big School) が新築されたが、1777年に入学した Richard Rouse Bloxam は入学直後の9月3日の日記に「工事人夫達が新校舎 (the new School) の基礎を掘り始めた」¹¹⁾と書き残し、また、その三日後の日記にも「水浴場 (the bath) が終わり、新校舎の基礎工事が始まった」¹²⁾と記しているというこの「水浴場」が生徒達のための水浴場なのか、単なる工事用の堀なのかは不明であるが、この新校舎は「ビッグ・スクール」の両わきに増築された校舎と考えられている。18世紀後半に相次いで校舎が新築されたことは興味深い。恐らく、この頃に生徒の増加に対応する体制が作られ始めていたと考えてよいであろう。Thomas James 校長の時代 (1778-94) には生徒数が増加し、1782年には生徒数の増加により校舎増築の請願がなされ、学校の土地にあったいくつかの納屋や小屋が教室用に改築されたといわれる¹³⁾。実際、James 校長はラグビー校の教育施設に関してかなり関心の高い校長であったといえる。1784年には彼は私費を投じて学校に隣接する土地を購入しており、また同年に新しい救貧院を建て、旧救貧院を「保健室」(nursery, つまり「療養所」(sanatorium) や宿泊施設 (lodging) に改築している¹⁴⁾。または彼は私用の水浴場を持っていた。ここは生徒が望めば使用することが出来たといわれる。しかし、1784年になると川で泳ぐ生徒のために水浴場に仮小屋が設けられ、水浴監視人 (bathing men) が生徒の水浴を監視するために雇われた。このために生徒は年間に1シリングか2シリングを払うことになった¹⁵⁾。また、この当時、生徒の水浴は教師の監視を受ける活動であったと思われる。低学年の教師であった Mr. Sleath は、この水浴場の監視役であったと考えられている。この水浴場の一帯は、彼の名に由来すると思われる 'Sleath's' や 'Sleats' という名称で呼ばれていたからである¹⁶⁾。いずれにせよ、比較的早期に出現する生徒の身体活動や遊びに対する施設の、教育的配慮が、水浴場に見られたということは興味深い。

Henry Ingles 校長 (1794-1806) の時代にも、ラグビー校の施設の拡充が計画された。1799年にラグビー校を拡充整備するための委員会が設置された。この当時、学校の収入は3500ポンド、ラグビー校理事会の貯蓄額は40000ポンドに及んでい

た。委員会は、①校長寮の建築、②礼拝堂 (chapel) の建築、③校舎の増築、という三つの計画をたて、費用として10000ポンドを計上した。Ingles 校長時代にこの計画は実行されることはなかったが、礼拝堂の建築を除く工事は1809年に着工された¹⁷⁾。

18世紀後葉から、ラグビー校の生徒数は増加し、その経営も比較的安定した状態にあったといえる。18世紀には学校の敷地の増加、校舎の新設と改築、生徒の健康のための保健診療施設の整備といったことが一定の進展をみた。しかし、この時代には、フットボールやクリケットなどの遊戯活動に関する言及が散見されるようになるが、運動のための特別な施設が発達を遂げることはなかった。唯一の例外は、水浴場に監視人を配置し、教師にも生徒の水浴の監視を行わせたことであった。19世紀以前には、未だクリケットもフットボールも、それ自体の活動の場を学校に要求し得るような活動にはなっていなかったといえよう。

3. 19世紀初期の運動施設：‘クローズ’の出現

1806年に John Wooll が校長職 (1806-1828) に就いた。前任の Ingles 校長の時代に計画されたラグビー校拡充計画は、1809年に実施に移されたが、その後6年間の歳月を要し、1816年に工事が完了したのであった¹⁸⁾。そしてこの年に1749年に購入された Barn Close, Garden Close, Pond Close の三つのフィールドを隔てていたフェンスが撤去され、今日に至るまで見ることのできる約8エーカーのいわゆる‘クローズ’が出現することになった¹⁹⁾。頭書に引用した M. Shearmann の指摘は、こうした‘クローズ’出現の経緯からすると誤りであったことになる。

三つのフィールドを隔てていたフェンスがなぜ取り払われたかの理由は明かではないが、そのことが少年達のゲーム活動に与えた影響は大きかった。1823年には生徒達がクリケットのために‘クローズ’の一部を整地したことが明かとなっている。この年の7月8日の命令書 (Order of July 8) には「事務官は、学校の若き紳士達に、彼らがクリケット・グラウンドの部分の平地するのに費やした3ポンド15シリング6ペンスを支払うこと」²⁰⁾が認められている。ラグビー校の学校関係文書の中に「クリケット・グラウンド」という名称が現れるのは、恐らくこれが初めてである。いずれにせよ、1816年の‘クローズ’の出現は生徒達の

ゲーム活動と深く関わっており、遅くとも1823年までには、その一部は生徒の専用の運動施設として公認されていたことになる。また1825年には、「スクール・ハウス・ガーデン (School House Garden) に面している囲い地 (close) と庭」²¹⁾が2000ギニーで購入され、Wooll 校長時代に学校周辺の借地を徐々に購入していく第一ステップが踏み出された。ラグビー校では、19世紀への転換期に、生徒専用の運動場を含めた学校施設の整備拡充傾向がかなりはっきりと姿を現し始めたと言えよう。

4. 1850年迄の運動施設の拡充動向

Wooll 校長の後任であった Thomas Arnold は1828年にラグビー校に赴任し、1842年に心臓発作で亡くなるまでラグビー校の改革に取り組んだ校長として著名である。しかし、学校施設や運動場の整備・拡充という点からすると、彼の業績は必ずしも偉大ではなかった。彼の時代になされた学校施設の整備は、1829年にタワー・チャンバー (Tower Chamber) が建てられてそこに図書室が設けられたこと²²⁾、1836年に15世紀のステンドグラスが購入されて礼拝堂の東側の窓に取り付けられたこと位しかないのである²³⁾。一般的に、彼の時代にスクール・ゲームが発達を遂げたとされるのであるが、その発達を支えた施設基盤は、彼の前任者 Wooll 校長に負うところが大きかったと言わなければならない。もう一步踏み込んで言えば、生徒のゲーム活動を公認し、彼ら専用の「運動場」(playing field) という施設を提供したのは、Arnold 校長ではなく Wooll 校長であったと言ってよいであろう。Arnold 校長の貢献は、公認されたゲーム活動を発達へと導く組織基盤を確立することにあつたと言ってよいであろう。しかし、ラグビー校でファイヴズが最初に言及されるのは1839年で、「旧中庭」(Old Quadrangle) で行われたことが知られており²⁴⁾、アーノルド時代にファイヴズ・コートが設置された可能性もある。

そのような発達の契機を含んだ組織化に再び施設基盤を提供しようとしたのが Arnold 校長の後任、A. C. Tait 校長 (1842-1850) であった。彼は Arnold 校長と異なり、様々な面で施設の改良を行った。1843年には、流行病の蔓延を防ぐため、各寮から病室を隔離する措置をとり、その経験か

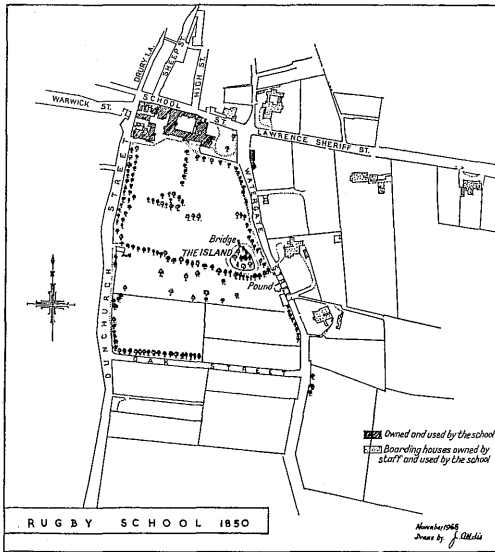


Fig. 3 1850年頃の‘クローズ’

ら1847年にはサナトリウムを Barby Road に移設した。1845年にはスクール・ハウスに新たな勉強部屋を増設し、そこに70人の寮生を収容できるようにした。また、翌年の1846年には、Arnold 校長を記念する‘アーノルド図書館’（Arnold Library）設置と記念碑のための基金を募った²⁵⁾。しかし、彼が運動施設の面でなした重要な貢献は、1847年の‘クローズ’の拡張と、1848年のファイヴズ・コート（Five Fives Court）の整備であった。1850年頃の‘クローズ’の図が示すように、‘Island’の周辺の濠が埋められ、従来‘ポンド・クローズ’と呼ばれていたフィールドの南側に土地が購入され拡張された²⁶⁾。この部分は‘テイト・フィールド’（Tait's Field）と呼ばれている。図が示すように、1850年頃まで、かなりの数の立木が旧境界に依然として存在していたことが理解できる。更に、1848年には現在の‘新中庭’（New Quadrangle）の所にあったオールド・ラグビアン（Old Rugby）の幾つかの小屋を、そこから熱病が流行したこともあって、Tait 校長は私費、750ポンドで購入し、生徒の要求により小屋を壊し、その跡に一面のファイヴズ・コートを造った。このファイヴズ・コートは従来のファイヴズ・コートの不足を幾分解消しようとしたものであった²⁷⁾。

このように1800-1850年までの運動施設の拡充動向を見ていくとき、この時期が学校ゲームの確

立期にあったことが理解できる。‘クローズ’の出現とその拡張、生徒のゲーム活動のための専用施設（運動施設）の登場、ファイヴズ・コートの出現等が見られた。こうした運動施設の拡充動向は、生徒のゲーム活動が、学校教育の重要な領域として認識され始めたことを裏づけていると言えよう。

5. 1900年迄の運動施設の拡充動向

1850年以前がラグビー校における基本的な運動施設の整備期であったとすれば、1900年迄の時代は多様な運動施設の整備期であった。E. M. Goulburn 校長（1850-1858）は Tait 校長の時代に拡張された‘クローズ’の南側のフィールドを1854年に寄贈し、更なる拡張をもたらした。この折りに、オールド・クローズとニュー・クローズの間に植えられていた樹木のいくつかを切り倒した²⁸⁾。こうして Goulburn 校長時代にはっきりと新・旧クローズの機能分離が確立し、1856年にはニュー・クローズで初めてクリケットが行われた²⁹⁾。また、‘クローズ’は東側のポンタインズ（Pontines）の方向が低地で傾斜していたことから、1857年に整地された³⁰⁾。これはクリケットにとって不都合であることから行われたものであった。運動競技の高度化、専門化はより適正な運動施設を要求するようになり始めた。

Frederic Temple 校長（1858-1869）は、就任後暫くして、サリー・ハロウエル寮（Sally Harrowell House）の敷地に実験室と校舎を建てるという、やり手の校長であった。また彼は、1859年にフットボールでの‘スタンディング・イン・ゴール’（standing in goal）を廃止した校長で、ゲームに対する関心の高い校長であった。彼の時代には幾つかの新たなゲーム施設が導入された。彼の時代に導入されたゲーム施設の一つはイートン方式のファイヴズ・コートで、もう一つはラケット・コートであった。1863年には2面の屋根なしのイートン・ファイヴズ・コートが2人の教師によって寄贈された。翌年には8人の教師によって、2面の屋根つきのイートン・ファイヴズ・コートが寄贈された³¹⁾。同じ1864年には最初のラケット・コートが建てられ、これを機にラケットの大会が創始された³²⁾。クラレンドン委員会の調査は1861年になされ、1864年頃に回答がなされたと考えられる。このクラレンドン報告書によると、彼の時代の運動施設は13エーカー 2

ロード 8 ポールの'クローズ'と一面の新しい屋根付きのラケット・コート, 数面のファイヴズ・コートに加えて, 体操用の鉄棒 (gymnastic bars), プランコ (swing), 上り梯子 (climbing ladders), 上り縄 (ropes) が'クローズ'の一角に設置されていたとされている³³⁾。

「もし校長が教えることも, 説教することも, 組織することも出来なければ, 彼は学者か紳士でなければならない」³⁴⁾。これは Temple 校長の後任である Henry Hayman 校長 (1870-1874) が就任して間もなく, ラグビー校の教師達によって彼に浴びせられた言葉であった。彼がゲームに対してどのような態度を持っていたのか分からないが, 1872年に体育館の建設が着工され, 翌年に完成した³⁵⁾。また, 1873年に新校舎が完成し, いわゆる'新中庭'も出現することになった³⁶⁾。しかし, これに伴い, Tait 校長の時代にこの場所に造られたファイヴズ・コートが姿を消すことになったと思われる。

Thomas William Jex-Blake 校長 (1874-1887) は学校ゲームに大いに貢献した校長であった。彼

はラグビー校出身で, 1850年の'クリック・ラン'で長いこと破られない記録で優勝したスポーツマンであった³⁷⁾。彼は1876年に'クローズ'の一角に生徒が親しみもって'tosh'と呼ぶプール (swimming bath) を寄贈した³⁸⁾。彼の時代には運動施設の更なる拡充がもたらされた。1883年に新しいラケット・コート (New Rackets Court) が建てられ, 1885年には'クローズ'の東側のバービー・ロード (Barby Road) を隔てた所にあるデュークス・オーヴァルの更に東側にカルデコッツ・フィールド (Caldecott's Field) と呼ばれる新たなプレーイング・フィールドが加わることになった³⁹⁾。Jex-Blake 校長の時代には, 運動施設の他にも, テンプル読書室 (Temple Reading Room. 1878), 美術館 (Art Museum. 1878), スクール・ハウスの北側のローレンス・シェリフ通りを隔てた所にニュー・ビッグ・スクール (New Big School) が建設された⁴⁰⁾。彼の時代に名実共に, 'グレート・スクール'の規模を誇るようになったといえよう。

図 4 と図 5 は19世紀末の'クローズ'である。

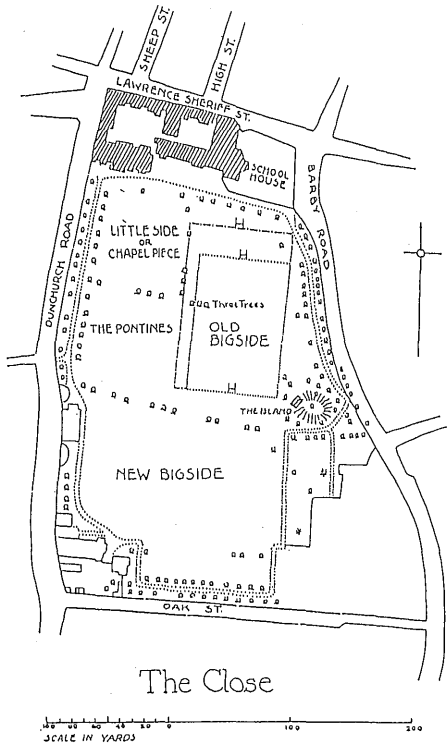


Fig. 4 19世紀末の'クローズ'

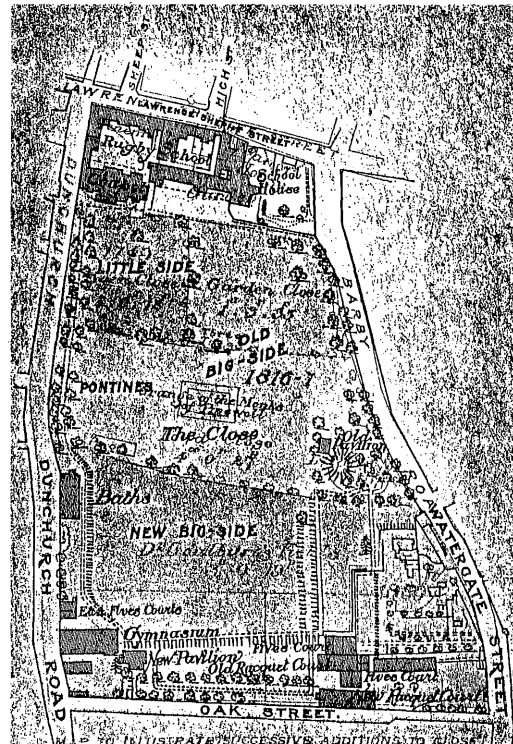


Fig. 5 1895年頃の'クローズ'

図4が示すように、19世紀末のラグビー校のクローズでは二つの大きさのラグビー・フィールドが準備され得た。その大小いずれもが'オールド・ビッグサイド' (Old Bigside) と呼ばれるクローズの北東部で行われていた⁴¹⁾。

図5は1895年頃のクローズの状態をより明瞭に伝えてくれる。この図によると、依然として'クローズ'が'リトルサイド' (かつての Bahn Close に該当), 'オールド・ビッグサイド' (かつての Garden Close と Pond Close の東側の一部), 'ポントイン' (かつての Pond Close 西側の一部), 'ニュー・ビッグサイド' (主に1854年に Goulburn 校長によって寄贈されたもの) によって、構成されていたことが理解できる。更にこの図は当時、このクローズの敷地に、プール (Bath), 三ヶ所のファイヴズ・コート, 体育館, 旧ラケット・コート, 新ラケット・コートが整備されていたことを示してくれる⁴²⁾。

しかし, John Percival 校長 (1887-1895) の時代にも更なる運動場の拡張がもたらされた。オールド・ラグビアン'の' Mr. Benn 'という人物が, ヒルモートン通りを東に数マイル上ったところに

約43エーカーの土地を遺書によってラグビー校の運動場として寄贈したのであった⁴³⁾。現在, ここに約30面のラグビー・フィールドが造られている他, ラグビー校の農場が存在している。このことはラグビー校が自校の名前を冠したゲームに並々ならぬ力を入れ始めたことを象徴している。

図6はラグビー校の運動場の拡充傾向を1895年にラグビーの起源を調査するために任命された小委員会が1897年に作成したものである⁴⁴⁾。この図はラグビー校の運動場が四つの段階を踏んで拡充してきたことを示している。第一は1749年にクローズの原型となる三つの土地が購入された段階, 第二は1864年にニュー・クローズが加えられた段階 (これは恐らく Goulburn 校長が土地を寄贈した1854年の誤りであろう), 第三は1886年にクローズ以外にカルデコット・フィールドが加えられた段階, 第四は1895年に Mr. Benn によってラグビー校の運動場として寄贈した'ラグビー校農場' (Rugby School Farm) である。19世紀末迄に, ラグビー校は3カ所に比較的広大な運動場を擁することになった。

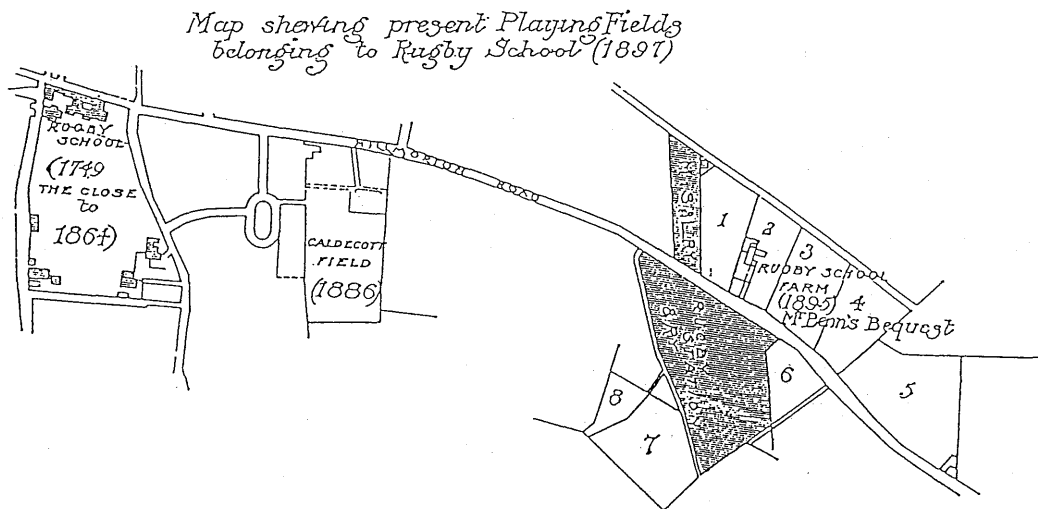


Fig. 6 1897年のラグビー校の運動場



Fig. 7 1967年のラグビー校

6. 結語：19世紀末迄のラグビー校の運動施設拡充の傾向

ラグビー校の運動施設の発達は、大きく分けて四つの段階からなっていた。第一の段階は運動場がもたらされるまでの時期である。ラグビー校創立から1749年まで、いわゆる「運動場」は存在しなかった。「庭」(garden)は存在し得ても、遊びや運動のための専用の施設は存在しなかった。第二の段階は次第に遊戯活動のための「運動場」(playing field)が確保されてくる時期である。既に見てきたように、ラグビー校の運動場の歴史は1749年の三つの土地の購入から始まった。しかし、そのことは、この時期まで、生徒が全く運動や遊びを行わなかったということではない。学校外のフィールドや川などが生徒の遊び場を提供していたことは十分に考えられることである。しかし、三つの土地の購入後、特に James 校長の時代頃 (1778-94) から、次第にゲーム活動に関する言及が見られるようになる。1777年頃にはク

ローズ'に水浴場があった可能性があり、1784年には近くの川で組織的な水泳指導が始められていた。1789年に入学した Charles Apperley Nimrods の回想によればクリケットが学校で人気のある活動であった⁴⁵⁾。また James 校長時代には'ラン' (run) が組織されていたといわれる。H. Ingles 校長時代 (1794-1806) の生徒で、後に有名な俳優となった W. C. Macready は1803年に入学して、明かに'クローズ'でフットボールを行っていた⁴⁶⁾。1749年から1816年の時期は、ラグビー校で次第にクリケットやフットボールなどの活動が興隆し始め、「庭」が「運動場」(playing field)として注目され始めた時期であった。

第三の段階は遊戯活動のための「運動場」が運動競技のための「運動場」に変化し始めた時期であった。生徒の間でのゲーム活動に対する関心は、1816年における三つの土地を分け隔てていたフェンスの取り払いを契機として、より高度に組織化されたフットボールやクリケットの活動を導くこ

とになった。1816年から1854年にかけて、ゲーム活動は近代的な意味での運動競技に変質し始めたと言えよう。ラグビー校のゲーム活動のための運動場の拡張は、1847年に Tait 校長によってなされた。このことは運動場としての「クローズ」の約 2 エーカー拡張が、校長及び理事会によって認められたことを意味している。しかし本格的な拡張は、1854年における Goulburn 校長による約 3 エーカーの土地の寄贈による「クローズ」の拡張であった。このことにより、「ビッグサイド」を 2 面とることが可能となった。しかし、Goulburn 校長による「クローズ」拡張の持つより重要な意味は、校長自らが生徒のゲーム活動のために 3 エーカーもの土地を寄贈した点にある。このことは、生徒のゲーム活動が単なる遊戯活動ではなく、校長自

らが意を注がねばならない学校の制度になり始めていたことを象徴しているからである。この第三段階の時期に、ラグビー校では、遊戯活動のための「運動場」は、明確に教育的活動の一環としての運動競技のための「運動場」に変化し始めたと言ってよいであろう。

第四の段階は、より専門化された多様な運動施設の衙示的な拡充の動向が顕著になった時期である。Goulburn 校長以後、表 1 が示すように、校長や教師や OB による多様な運動施設の寄付行為がしきりに見られるようになる。こうした運動施設の拡充の動向と性格は、ラグビー校ではアスレティシズムの物質的基盤が1850年代頃から明確に姿を現し始めたことを示唆している。

Table 1 ラグビー校の運動施設の拡充動向

| 年 | 拡 充 動 向 | 規 模 | 財源 |
|------|---|-----------------------|----|
| 1749 | クローズの原型となる三つの土地の購入 Barn Close : 2a. 0r. 12p. The Garden Close : 1a. 3r. 35p. Pond Close : 4a. 0r. 27p. | total 8a. 0r. 34p. | 購入 |
| 1784 | T. James 校長、私費で学校の隣接地を購入 (後に理事会が買い取る)、またこの頃彼は個人の水浴場を持ち生徒に利用させていた | | 購入 |
| 1816 | Barn Close, Garden Close, Pond Close, の境界壁を取り払い「クローズ」が出現 | | |
| 1825 | スクール・ハウス・ガーデンの反対側の隣接地購入、学校周囲の借地を徐々に購入する第一歩 この頃アッパー・スクール専用の 1 面のバット・ファイヴズのコートがあった | | 購入 |
| 1847 | Tait's Field がクローズにつけ加わる また「アイラント」周囲の濠が埋め立てられる | (2a. 0r. 35p.) | 購入 |
| 1848 | 新たにファイヴズ・コートが 1 面造られる | | |
| 1854 | E. M. Goulburn 校長、Tait's Field の隣接地を寄贈 | 3a. 0r. 19p. | 寄贈 |
| 1857 | クローズ内の「ボンタインズ」を整地 | | |
| 1863 | 2 面の屋根無しのイートン・ファイヴズ・コートが 2 人の教師によって寄贈される | | 寄贈 |
| 1864 | 2 面の屋根付きのイートン・ファイヴズ・コートが 8 人の教師によって寄贈される | | 寄贈 |
| 1864 | 最初のラケット・コートが造られる | | |
| 1873 | 体育館完成 | | |
| 1875 | T. W. Jex-Blake 校長、プール (swimming bath) を寄贈 | | 寄贈 |
| 1877 | ローンテニス・クラブ結成 この頃テニスコートが存在していたと思われる | | |
| 1883 | 新ラケット・コート造られる | | |
| 1885 | カルデコット・ピース購入される | (約8エーカー) | 購入 |
| 1895 | スプリングヒル・ファームがオールド・ラグビアン の Mr. Benn により遺贈される | 43a. | 寄贈 |
| 1928 | O. B. 寄贈の新しいプールがオープンする | | 寄贈 |
| 1928 | テニスコートがスプリングヒルに移される | | |
| 1937 | 3 面のローンテニスのハードコートがカルデコット・ピースに寄贈される | | 寄贈 |
| 1938 | 更に 3 面のハードコートがカルデコット・ピースに整備される | | |
| 1947 | 6 面のローンテニスのグラスコートがスプリングヒルに整備される | | |
| 1948 | ローンテニスのハードコート 1 面がカルデコット・ピースに整備される | | |
| 1948 | 更に 6 面のローンテニスのグラスコートがスプリングヒルに整備 | | |

ラグビー校においては19世紀初期迄に遊戯活動のための「運動場」が出現し、それは1850年代迄に運動競技のための「運動場」として整備され始めた。より正確には、1840年代から生徒のゲーム活動に対する施設整備の意向が明確に現れ、1850年以後、運動施設の寄贈・寄付が象徴するように、校長、理事会、親、OBという学内を越えたネットワークによって、生徒のゲーム活動の施設整備と拡充が加率的に推進されたのであった。19世紀末の1895年迄には、ラグビー校の‘ラン’や‘クリック・ラン’を育んだ豊かな田園や自然環境を除いて、合計、約64エーカー（約259000m²、約78483坪）のプレーイング・フィールドが整備され、少なくともフットボール、クリケット、ランやそのほかの陸上競技のためのフィールド、ファイヴズ・コート、ラケット・コート、体育館、水泳プール、等の運動施設が整備されていたのであった。

こうした動向は、パブリックスクールにおける運動場の出現と拡充動向が1850年以後のことであるという Mangan の説と比べると、ラグビー校では約30年～40年近くも早くから運動場が「出現」したことを示している。また、その「拡充」の必要性は、遅くとも1840年代末から、ラグビー校の校長達によってはっきり意識され始めていたことが理解できる。こうしてみると、イギリスのパブリックスクールにおける運動場の出現と拡充の動向は、幾分その時期を早めなければならないといえよう。そしてこの点は、Mangan が明らかにしようとした教育的イデオロギーとしてのアスレティシズムの発生の時期とも重要な関連を持つ。運動場の出現と拡充がアスレティシズムの発生と興隆の物質的根拠となるという Mangan の重要な指摘を尊重しつつも、今後、その他のグレート・パブリックスクールにおける動向を調べることによって、彼の説を再度検証し、アスレティシズム発現の時期を再措定する課題が残されている。

引用文献及び注

1) Mangan, J. A. : *Athleticism in the Victorian and Edwardian Public School : The Emergence and Consolidation of an Educational Ideology*. Cambridge Univ. Press. 1981. pp. 99-103, 及び pp. 235-242.
アッピンガム校の運動施設の拡充動向は1872

年に提出された‘A Statement of Capital Invested and Comparative Annual Expenditure of Trust and Masters 1853-1872’から窺われる。Mangan は次のように要約している。

- (1)1853年以來の財団に対する教師の醸金
 体育館（1859年完成） £300
 クワッドのファイヴズ・コート2面（1864年頃） £100
- (2)教師の共同利用に属する施設への醸金
 二つの水浴場（1860年頃） £250
 二つのクリケット場 £300
 クリケット場のパヴィリオン（1864年完成） £360

（年代は Malcolm Tozer : *Physical Education at Thring's Uppingham*. Uppingham School. 1976. を参照）

一方、Mangan は、1850年から1900年にかけて、ハロー校では運動施設に対する醸金が顕著であったことを補遺の一覧表の中で明らかにしている。

| | | | |
|------|-----------------------------|---------------|--------|
| 1851 | 水浴場の改良 | ヴォーン校長の献金 | £1000 |
| 1864 | ラケット・ファイヴズ新コート | 一般醸金 | £2300 |
| 1866 | フィルアスレティック・フィールド （9エーカー） | 一般醸金 | £7000 |
| 1873 | 体育館 | ライオン記念基金 | £7000 |
| 1884 | フィルアスレティック・フィールド （5エーカー） | グリムストーン記念基金 | £3000 |
| 1885 | フットボール・フィールドの購入 | バトラー記念基金 | £18500 |
| 1891 | 新ファイヴズ・コート | ある父兄の寄贈 | £800 |
| 1891 | ハロー校のクリケットのために | あるOBからの遺贈 | £1000 |
| 1893 | 低学年のクリケット・フィールド | 教師 E. バウエンの献金 | £1000 |
| 1894 | ハロー校のクリケットのために | あるOBの遺贈 | £1000 |
| 1895 | ハロー校のクリケットのために | ベスポロー伯の遺贈 | £200 |
| | クリケット・フィールドの改良 | ベスポロー記念基金 | £5500 |

- フットボール・フィールドの購入
一般醸金 £19000
ハロー校のクリケットのためにあ
るOBの遺贈 £500
ハロー校の事例はかなり詳細に記録されてお
り、この一覧表は、1850年以前から、ある程
度の運動施設が出現していたことを示唆して
いる。しかし Mangan が1850年代以前のハ
ロー校における運動施設の出現と拡充に関し
て言及せず、「この研究で調査した学校の中
で、アッピング校がゲーム施設の発達の完全
な記録を持っており、また他の学校を広く代
表している」(p. 100)として、ハロー校を
本論で取り上げず、アッピング校の事例のみ
を代表させたのは、幾分問題であったと考
えられる。
- 2) Ibid., p. 99.
 - 3) Ibid., p. 103. この引用は C. Cookson (ed) : *Essays on Secondary Education*. Oxford. 1898. p. 272.
 - 4) Shearmann, Montague. *Athletics and Football*. Longmans, Green, and Co. London. 1887. p. 272.
 - 5) Montague Shearmann の唱えるラグビー校のフットボールの起源に対する批判は、1897年に Old Rugbeian Society によってなされた。この批判は “*The Origin of Rugby Football. Report (with Appendices) of the Sub-Committee of the Old Rugbeian Society*” として出版された。なおこの小委員会は1895年に設置された。
 - 6) Rouse, W. H. D. *A History of Rugby School*. Duckworth & Co. London. 1898. p. 27.
 - 7) Ibid., p. 107.
 - 8) Ibid., p. 198. 広さき単位は 1 acre = 4 rood = 160pole である。(1 acre = 4046. 8m², 1 rood = 1011. 7m², 1 pole = 25. 3m²)
 - 9) Ibid., p. 197.
 - 10) Bray, William. *Gentleman's Magazine* への投稿。(Sept. 1809. p. 799.)
 - 11) Rouse, W. H. D. op. cit., p. 119.
 - 12) Ibid., p. 119.
 - 13) Ibid., pp. 132-3.
 - 14) Ibid., p. 134-5. Thomas James 校長が私財を投じたこの土地は、後にラグビー校の理事

- 会によって300ポンドで購入された。
- 15) Ibid., p. 135.
 - 16) Ibid., p. 135-6.
 - 17) Ibid., p. 196.
 - 18) Ibid., p. 197-8. 当初の予算では礼拝堂の建築を含めて10000ポンドであった。礼拝堂の建築は断念されたが、1816年に工事が完了したときの費用は35000ポンドにはね上がっていた。礼拝堂の建築契約は1819年に7500ポンドで結ばれた (Ibid., p. 204). また、学校図書館の建築契約は1827年に約1350ポンドで契約され、Arnold 校長時代に完成した。
 - 19) Ibid., p. 198.
 - 20) Ibid., p. 190.
 - 21) Ibid., p. 200.
 - 22) Ibid., p. 233.
 - 23) Ibid., p. 235.
 - 24) Simpson, J. B. Hope. *Rugby since Arnold. A History of Rugby School from 1842*. Macmillan, 1967. p. 276.
 - 25) Ibid., pp. 276-8.
 - 26) Simpson, J. B. Hope. Op.cit. p. 294. からの引用図。またこの用地の購入に関する「命令」(Order) は1847年6月3日付けで出されている (Rouse, W. H. D. op. cit., p. 278). この土地の広さは先行研究では明らかにならないが、クラレンドン委員会報告書が1864年当時の‘クローズ’の広さを 13a. 2r. 8p. と指摘していることから、2a. 0r. 35p であったと思われる。
 - 27) Rouse, W. H. D. op.cit., p. 278. ファイヴズ・コートに関する「命令」(Order) は1848年6月30日付けで出されている。
 - 28) Ibid., p. 285.
 - 29) Ibid., p. 285.
 - 30) Ibid., p. 285. ‘Pontines’ という名称は、恐らくイタリアのローマの南東にある湿地、ポンティノ平原をもじったものであろう。
 - 31) Simpson, J. B. Hope. op.cit., p. 277.
 - 32) Ibid., p. 277-278.
 - 33) *Reprt of Her Majesty's Commissioners Appointed to Inauire into the Revenues and Management of Certain Colleges and Schools*. H. M. S. O. 1864. (通称は委員長であった Earl of Clarendon の名をとって、クラレンドン報告書とよばれる)

- 34) Honey, J. R. de S. *Tom Brown's Universe. The Development of the Victorian Public School.* Millington. 1977. p. 325.
- 35) Rouse, W. H. D. op.cit., p. 305.
- 36) Ibid., p. 305.
- 37) Ibid., p. 305.
- Thomas William Jex-Blake はラグビー校在学中の1850年に'クリック・ラン'で優勝した。その時の1時間24分の記録は、1863年に2分間短縮されるまで破られることはなかった。彼は1851年にオックスフォードのユニヴァーシティ・カレッジに入学を許され、1855年に文学士、1855-58年の間クイーンズ・カレッジのフェロー（特別研究員）、1857年に文学修士、1873年に神学博士を取得した。1858年から1868年にかけて母校、ラグビー校の助教師となり、その後1868年から1874年までチェルトナム・カレッジの校長（Principal）を務めた。ラグビー校のアスレティシズム興隆期に重要な役割を果たした人であったといえ

- よう。
- 38) Ibid., p. 305. この年代については異説がある。J. B. H. Simpsonによれば、このプールが寄贈された年代は1875年とされている。（J. B. H. Simpson. op. cit., p. 288）
- 39) Ibid., p. 306.
- 40) Ibid., p. 306.
- 41) Old Rugbeian Society. *Football Records of Rugby School. 1823-1929.* Rugby. 1930. p. 9. より引用.
- 42) Old Rugbeian Society. *The Origin of Rugby Football : Report with Appendices of the Sub-Committee of the Old Rugbeian Society appointed in July 1895.* Rugby. 1897. p. 8. より引用.
- 43) Rouse, W. H. D. op.cit., pp. 307-8.
- 44) Old Rugbeian Society. (*The Origin of Rugby Football*) p. 18. より引用.
- 45) Rouse, W. H. D. op. cit., p. 170.
- 46) Ibid., p. 190.